

【衆議院予算委員会】

「令和5年度一般会計予算・令和5年度特別会計予算・

令和5年度政府関係機関予算」に対する反対討論

立憲民主党・無所属

藤岡 隆雄

立憲民主党・無所属の藤岡隆雄です。

私は、会派を代表して、令和5年度一般会計予算外二案については反対、また、他会派提出の組み替え動議についても反対の立場から討論致します。

この間の予算審議を通じてはっきりしたのは、2012年の政権交代以降の我が国の「失われた10年」の姿です。岸田総理が自民党大会で語った「前進の10年」というのは「大きく間違った方向への前進の10年」といえます。

本会議で自民党幹事長が児童手当の所得制限撤廃を求めたことに関し、過去に自民党が「この愚か者めが」というTシャツまで作成して所得制限なしの子ども手当へ反対したことなど、日本の重大な針路を誤ったことへの真摯で十分な総理の反省はありませんでした。

総理が子ども予算の倍増とぶち上げるものの、「倍増のベース」を一向に示さず、総理答弁でようやく示したと思えば、官房副長官、官房長官と続いて、総理答弁を大きくねじ曲げた解釈が語られました。

岸田総理がこの答弁の撤回もせずに、最後まで倍増のベースを示さなかったのは、少子化対策に対する異次元の覚悟のなさを物語っております。

総理が倍増の覚悟を有するというならば、少なくとも、立憲民主党と日本維新の会で共同提出した「児童手当所得制限撤廃法案」に賛成することを強く求めます。

性的マイノリティの方々に対する元総理秘書官の言語道断の

差別発言が明らかになりました。それだけではなく、岸田総理自らも「社会が変わってしまう」という非常にネガティブな答弁をされましたが、この答弁も撤回しないまま、今日に至りました。

ネガティブでないというならば、先進国に大きく遅れをとっている状況を少しでも「前進」すべく、LGBT当事者の皆さんが望む差別解消法の制定、同性婚の法制化の決断をすべきであります。

さて、令和5年度予算については、問題点は枚挙に暇がありません。例えば、額ありきの防衛予算に関し、トマホークの弾の数について、我が党の泉代表が、米国の国防総省と同様に開示すべきと求めるまで明らかにしてきませんでした。

ようやく開示されたと思ったら、総理と防衛大臣で、それぞれ「400発の予定」と「最大400発」で食い違いを見せるなど、防衛予算の根幹部分の事実関係の正確性に大きな不安を露呈しました。

存立危機事態における反撃能力行使が可能かどうかについて、最後まで分かりやすい答弁をせずに、分かりやすい事例も示されませんでした。

私たちも防衛費の増額について一定の理解を持っております。しかし、このような政府の杜撰な状況などにおいて、5年で43兆円の防衛費増額のための防衛増税は直ちに撤回を求めます。更には復興所得税や年金財源の流用は、断じて容認できるものではありません。

更には、5兆円という巨額の予備費計上も財政民主主義に反するといえます。

以上申し上げた通り、看過し難い問題が数多く存在することから、令和5年度一般会計予算外二案については反対、他会派提出の組み替え動議についても、我々と見解を異にすることから

反対することを申し上げ、私の討論を終わります。ありがとうございました。